

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長

#### 長月 月次祭挨拶

サルートン皆様こんにちは  
キーエルヴィフアルタス  
ご機嫌いかがでしょうか。

日毎に、涼しくなっていく  
ような季節になってきました  
が、まだ日中は暑く汗が噴き  
出る日が続きます。

長月月次祭に、大勢の方  
が、ご参拝して頂き誠に  
ありがとうございます。

この月は、長寿の十五名  
の方々を寿ぐ祝詞を奏上さ  
せて頂きました。挨拶が終  
わりましたら、直心会より  
記念品の授与が有ります。

東海教区では、八月二十四  
日・二十五日に三河本苑で、  
葬祭研修会が本部亀岡祭務課  
長、加藤道明様を講師として  
開催され、名古屋からは四名  
の方が参加いたしました。

内容は、大本葬の意義、誄  
詞の作成方法の座学を受け一

連の実技に入りました。名古屋分苑で行う、葬祭研修も同じ内容で行いますので是非参加をお願いいたします。

秋の大祭は神ノ倉分所が、執行委員長で副が若葉支部となつています。本部講師として青年部長、穴井賢太郎様がお見えになります。

来週二十一日(土)二十二日(日) 大本青年部発足六十周年記念行事が亀岡天恩郷で開催されますが、二十二日の九時三十分からの記念祭典には何方でも参拝が出来ますので宜しくお願いいたします。

翌週の二十八日(土)二十九日(日)は名古屋分苑での祭式講習会と葬祭研修会を行います。講師は加藤道明様がお見えになります。参加希望の方は、食事の準備のため氏名をお書き下さい。

十月に入れば十八日は、香良洲神社石碑建立記念祭典が

教主さまご臨席のもと、香良洲神社主催で執行されます。すでに、なごみでお知らせしています。全国からバス、乗用車で参拝にお見えになるため、三重主会から駐車場係等のお手伝いを名古屋分苑で五名ほど依頼があります。

石碑建立の経過は字彫が七月二十三日完了、八月二十四日記念碑設置場所の工事完了、二十六日竹垣作成完了で石碑据え付け工事が現在進行中となっております。

当日は、直会がありませんので、各自準備をお願いいたします。式次第は後ろに貼っています。祭典終了は十二時半ごろの予定です。

当日十九時三十分から第五十七回霊界物語全国一斉拝読会があります。既に各分所支部等には拝読割り当て箇所を配布してあります。拝読の結果は翌日の大祭大掃除または大祭当日にお聞きいたします。最近コロナウイルスが流行しています。

昨年十一月に日本が世界初

で承認した新型コロナウイルス「ンレプリコンワクチン」の定期接種が始まります。

免疫力を高めるために、お土、お松、梅干しや梅肉エキスなどを積極的に頂いて、安全と健康を第一に考え、安全性が確保されていない食品や医薬品は体の中に入れて自分の体は自分で守るという信念をもって、慎重な判断をお願いします。

詳細は大本誌九月号の最終ページに記載されていますので皆様も良くお読みになって下さい。

本日の参拝誠にありがとうございます。ございました。コーランダンコン

### 行事報告

#### ●月始祭

九月七日(土)

- 参拝者 二十四名
- 斎主 見田すみ子
- 祭員 畠山 亜美
- 祭員 堀 禮子
- 伶人 飯田 直美
- 進行 堀 和子

#### ●月次祭・長寿感謝祭

九月十五日(日)

- 参拝者 三十九名
- 斎主 近藤 哲史
- 祭員 日比 達朗
- 祭員 仙頭 志音
- 祭員 畠山 茂
- 裏方 伊藤久仁男
- 典礼長 小林 清人
- 伶人 飯田 直美
- 伶人 澤田 淳
- 伶人 長谷川美枝
- 伶人 伊藤恵美子
- 進行 伊藤 秀子





祭典後、長寿の皆様には直心会より記念品が授与された。おめでとございます。

米寿

喜寿

城北分所	浅野	吉章
北一支部	松沢	玲子
城北分所	高村由利子	
城北分所	稲子	昭男
神ノ倉分所	中野	敬子
神ノ倉分所	福島	正美
若葉支部	鈴木	政範
明北支部	小林	三男

津島支部	妹尾美代子
牛山支部	中平りえ子
弥富支部	小鹿美千代
半田会合所	伊藤久仁男
一宮会合所	中島 久夫
分苑直属	白鳥 道枝
分苑直属	波多野朝子

● 祭式講習会・葬祭研修会

九月二十八・二十九日に本部より加藤道明祭務課長を講師にお迎えして開催され、岐阜主会四名を含む二十名が参加した。

二十八日、午前九時より祭式講習と葬祭研修のグループに分かれて実習を行った。夜間は親睦会を実施し、交流を深めた。翌二十九日の午後からは二名が初級・一名が中級の実技試験に臨んだ。



行事予定

十月十八日(金)

霊界物語一斉拝読会

十月二十日(日)

秋季大祭・秋季合同慰霊祭

午前十時より

十月二十六・二十七日(土・日)

誠心会献勞奉仕(綾部)

十一月二日(土)

月始祭・開祖大祭遥拝

午後一時半より

じいじの道草雑話

【稲穂】

特任宣伝使 妹尾正治

今年も黄金色一色になった田んぼの畦道をトンボと一緒に散歩しています。

この時期になるといつも思い出すのが「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と言う言葉です。

じいじの子供の頃は先生とか親からよく聞かされ「大人になつて出世しても決して威張つてはいけない、立派な人ほど頭をさげるもの」と学びました。

最近、会社の社長さんとか役所のおえらいさんの謝罪会見をよく目にします、皆さん『この度は誠に申し訳ありませんでした』と5秒ほど深々と頭を下げてから記者の質問に答えてみます。

「立派になった人はやっぱり頭を下げるものだ」子供の頃に聞いた言葉は本当だったと

感心しています。

しかしその後がいけない、ビツクモーターの不正事件の謝罪で社長は『人様のお車をゴルフボールで傷つけるなどもつてのほかです』『すべては工場長の判断で行われた事です』と自身を責める言葉はなかった。

政治家の先生方も、選挙になると至る所で頭をさげていますが、当選した途端にふんぞり返つてカネ・カネと東奔西走されています。

山一証券の破綻会見での野沢社長の言葉を思い出します、男泣きに号泣し『社員は悪くありませんから！』この姿が本当の「実るほど頭を垂れる稲穂かな」だと感銘しました。

私も含めて皆さんに言いたい『小学生に戻つてこの言葉を復唱しましょう！』

